

が ん ば

佐藤先生おめでと

校長 村田正二

文部大臣賞を受賞して

二月に東京都美術館で開かれた全国児童選抜展の洋画の部で、美事、文部大臣賞となつた佐藤先生の作品「残村」。全国から集りすぐられた作品ばかり集った中で、ただ二点がえられた。いわば、県展最高の賞に輝いたのである。この数年間、県展では知事賞など連続入賞、西日本新人展でも銀賞を受賞した佐藤先生の画歴から考えると、当然来るべきものが来たという感じがする。しかし、何にしても

二月に東京都美術館で開かれた全国児童選抜展の洋画の部で、美事、文部大臣賞となつた佐藤先生の作品「残村」。全国から集りすぐられた作品ばかり集った中で、ただ二点がえられた。いわば、県展最高の賞に輝いたのである。この数年間、県展では知事賞など連続入賞、西日本新人展でも銀賞を受賞した佐藤先生の画歴から考えると、当然来るべきものが来たという感じがする。しかし、何にしても

報行部 印刷所
友会 印刷所
小育 印刷所
三小 印刷所
島発 印刷所
廣印 印刷所
つるかわ印刷所



「残村」を出展して

図工主任 佐藤利宗

この度、東京上野の都美術館で開催された第十一回県展選抜展で文部大臣賞をいただくことができました。

これも、御父兄の皆様や諸先生方の励まし賜だと心から感謝いたしております。

この美術展は、昭和四十六年に行われた県展の洋画、日本画、工芸、書、写真の各部から一点か二点を選抜し東京に集めたものです。長崎県からは七点出品されたそうですが、全体では、三十四県から二百二十五点が集まりました。その中から、九点(洋画は二点)が文部大臣賞に選ばれたわけですが、わたしは、第八回について二回目の出品でしたが、わたしの作品が受賞するとは思ってありませんでした。

出品した作品の題名は「残村」ですが、この作品は県展で知事賞をいただき、市展にも出品したものです。内容はこの数年來、心をひかれて描いている古いわら屋根と土壁の中にひとりの老農夫を組み

に、子どもたちが精魂をうちこみ、教師が意欲をもちやして新しい意義を見出してこそ、ほんとうの伝統ができていく。校内図工展のメ切りが近く、職員室で或いは図工室で、十数枚の絵をひろげて見ながら、数人の先生方と熱心に話しをしている佐藤先生の姿を何回となく見かける。これなども伝統づくりの一コマと言えるのではなからうか。このほか、三小には立派な伝統がたくさんある。どれも永い努力の積み重ねによってつくりあげられたものである。このような伝統が、三小の子どもたちの力を、どんどんなばしているのではなからうか。こんなことを考えながら、改めて、佐藤先生の受賞の喜びをかみしめている。

※ ※ ※ ※ ※



生活部の反省

しつけと あいさつ運動

生活部長 松本 博



過日、生活部では反省会を開催し、次年度更に充実した活動が出来るように、年間の活動をふりかえって見た。

本年度当初、子どもたちが心身ともに健全に育つようにと希って活動計画をた

てたが、子どもたちを取り巻く情勢の移り変りの激しさ、一年を経過した今、あの年間計画が古ぼけてみえるほどである。

幸に、子ども達が大きな事故やあやまちもなくすごせたのは、会員の方々のご熱意の賜であらう。

だが一部の子どもで今のように正しく導びかなければ将来が思いやられるものもある。守らなければならぬルールから逸脱した行動をしている子どもをそのままに放置したために非行化していくことは数多く、そのルール違反の子

どもを指導するには、一部の関係者や育友会員の力でもても間にあわない。若いも若きも、自分の家庭内では勿論のこと一歩外に出たときは、子ども達の行動に愛情の目をむけ、社会人の責務として次代を託す子どもたちの指導にあたるべき時代になっているように思われる。

生活部では「しつけとあいさつ運動の徹底」を活動の重点として各町内とも地域の実状にあった指導計画をたて、各家庭でも町内育友会でも子ども達をいつもみつめてきた。

その成果は今すぐ目につくものではないかもしれないがその積み重ねによって、のぞましい社会人となるためのすこやかな成長を確信し、あしたもあさっても、次の年もその次の年も、自分の家、自分の家族の枠を越えて敷しく暖かい目を子どもたちに、そそいでもらいたいものです。

反省の中から一言、各家庭

いや一部の家庭かもしれないが苦言をいわしていただきたい。

例えば、子どもたちがよく立食いをしているのを見かけるが、その子の家庭は子どもをしつけが下の下であることはいふふらしているようなものではないだろうか。お菓子屋に買いにいって家に帰るまでに食べる子、友だちと遊びながら食べている子等通りがかりにそれを一回や二回注意してもなおるものではなく、こんなことは家庭で小さいときからのしつけによるほかはない。

反省の中から次の二点について次年度への参考あるいは問題提起としたい。

一、少年団対抗球技大会について

七月二十九日に実施した少年団対抗球技大会は予定日が雨天のため日延べとなり、そのため一部の町内には町内育友会の行事と重複して大変迷惑をかけた。

今後このようなことのない様、企画の面で充分検討し、順延を見こして学校、町内ともその日の三日後くらいまでは行事をさけるべきであり、

また会場の確保についても同日程度は余裕をもって手配すべきであらう。運営にあたって部員や各町生活指導員の方に大変お世話になったが、大会当日自分の受持ちがはつきりしないで困ったという意見もありこれも企画の際充分検討すべきである。

二、土曜日の道路掃除について少年団活動の一つとして子どもたちが毎週土曜日に町内の道路掃除をしているが色々と廃止意見が出ています。主なものをあげると

1 道路がほとんど舗装されて散らかっていないので掃除の意味がない

2 朝早く人通りがないことを

卒業を前に
古川 定子

桜の蕾もまだ固くて、淡い春の朝であった。三小の階段を、いちに、いちにと、かけ声かけ、親子して登って行った六年前のあの朝がつい昨日の様に懐かしい。いつも登る階段なのに此の朝ばかりはとて、新

幸に自動車等が相当のスピードで走って来るので危険である。

3 団長、副団長が呼びに行かないと集合しない。ひどい家庭では何回も呼ぶとうるさがられる。

4 団長、副団長の家庭では掃除中の事故などに大変気を使わなければならない。

5 会員の指導協力がほとんどない

子どもたちが社会のためになることを自分たちできめて実施しているものであるのでは各町内とも充分検討していただき何らかの形で社会奉仕の実践として指導していただきたいものである。

鮮だ。今春短大に行く長女、高二に進学する長男も、つい昨日の事の様に手をつないで此の校門をくぐったのに。今度は未っ子が三小と「さようなら」をする日も近い。永遠にでなく。

孫の手を引いて未来を托す子と、一、二、三、四と、かけ声かけて、入学の朝を迎える日も遠くはない。その時の私は、長女の時より、長男

の時より、末っ子の時より、もっと、もっと大声をかけなければ孫の足には追いつかないだろう。

子供達の前には、父親の入学の朝も燃えて美しくそして多くの子供達と同じく、未知の世界に分け入る不安と、いでたちの喜びとで自分の肩はばより大きいランドセルもカタカタときわ高く鳴っただろう。

長女の時、小さい集団の中でうまく協調して行けるのかと不安の方が先であった。長男の時も。ましてや末っ子の時も。どんなに経験を重ねても、未知の世界に挑戦する我が子を送り出す親の心は同じである。たとえ何度入学の朝を迎えても。まして優等生であつてくれ、総代になつてくれという傲慢な欲など微塵もない。ただ、ただ、人と仲良く、校規にはずれた行動をせず、交通事故に会わぬ様に祈つて送り出す毎日であつた。

消え入りそうな返事しかできなかつた裕子も、今はびっくりする位、ボーイッシュで元氣過ぎる子供に育つて目を見はらせる。そして今は又せつせと編物をし、ちよっぴりお

洒落れもするよゑになつて、たまさか少女らしい身ごなしもし、小さい一年生の手を引いて、交通戦争の通学道路を胸を張つて行く。

ふと開いた新聞の隅に、六年生達の次の詩をみた。

私達が入つていた一年生の教室で、六年前に使つた教室も、机も、椅子も、高すぎたのに、此の低さはどうだろう。何もかも入れかわつてしまつた。入つてゐる絵も、字も、作文も、そして心も、からだも、頭の中も、卒業式が目の前にきてなお更この詩の重みが私の心に深く落ち込む。私の言いたい想いがこの詩の中で躍る。六年間各先生の数字の貴重さ強み。各先生方の辛酸の積み重ねの記録、いや金字塔。これから続く長い学生生活、そして大人になつて行く果てしない道のりを、後も振り返えらず前進する日々ばかりもあるまい。ふと我にかえつて立ち止つた時、三小で肌ふれあつて学んだ日が、せつなく魅みがかつて勇氣を呼び戻してくるに違いない。

もうこれから先、わぁーんとはずんだ運動会の楽しい声の響も、プールの水あびで、こだますあの声の騒ぎも聞えはしない。孫の泳ぐ日まで運動会で走る日まで。

六年五組 中山 敦

小学校卒業。それは一生に一度のことである。だから自然に卒業が心に強く感じられる。気持ちがいよいよの、さみしいともいえないような気持ちだ。

第一に、「義務教育の三分の二が、すでに過ぎ去る」ということだ。

胸をふくらませて一年生に入学した。まだ本当に幼い子供だった。学校生活になれなくて先生方にめいわくをかけることも多かつたし、失敗することもあつた。二年生になつて、ようやく学校になれてくる。それから三年生、四年生、五年生になるに従つて、学校生活とは、一つのま

卒業生作文から

りの中に一人々々がよくとけこんで、楽しい中にもおたがい協力し、持てる力を、それが勉強の中で、運動の中で一生けんめいのばして行く。決して「自分さへよければ」という気持ちを持つてはいけなく、もしそういう考えを持つたこと、そこから全体がくずれのつた。

第二 最高学年になつた四月。だれでも「自分は六年生だ。最高学年なんだ。」という自覚を強くしたはずだ。でも今はどうだろう。そういう気持ち、この一年間果してどれだけの人がもち続けてきたのだろうか。残念ながら、ぼくには、その自信がなさそうである。遊びにあけくれたこともあつた。一時は反省するところもあつた。しかして今学校生活全体をふり返つてみて感じることは、やはり人間はなまけ心がついた時、いつも初心に戻り、入学当時の希望にあふれていたころや、中学年、高学年になつた学年始めに、たえず「よし、やるぞ。」と心に強く感じたことをささみこみ、反省の資料にしなければいけないと思つた。

第三に、「自分は学校生活で、一番大事な時期をすごした。」ということがある。なぜならば、小学校では、なにごとも基本になることを学習するからだ。中学校、やがて高校、大学と進学するにしても、まず一番基本になるのは、この小学校六年間の学習ではなからうか。このことは、大変大切なことだと思つた。

第四に、「この三小を卒業しても、印象に残つたことは絶対忘れてはならないこと。」たとえ白山。白山は現在自然の姿から、近代的な道路へ変わるうとしてゐるが、ぼくにとつては、忘れがたいものだ。何年生の時だったか、白山で遠足のやりなおしを自分たちだけでやったことがあつた。理科の時間に白山に登つたこともあつた。そのような思い出の場所が、今はもうなくなつてしまつていく。それに今まで習つた先生や親友も、絶対忘れてはならない。

第五に、「昭和四十一年から四十七年まで、ぼくたちは三小にいた。」ということだ。形にして残したいと思う。どんな物が残されているかわからないが、ぼくらは、今までと全くちがうもので、一目見てもすぐ「ああ、あれは昭和四十七年の卒業生が残して置いてある」とわかるものがあると思う。

卒業。それはなんと悲しくなんと希望に満ちたものだろう。学校を去るのは悲しい。でも、やがて入学する中学校では、どんな先生、どんな友だちができるだろうか。希望もわいてくる。卒業。それはなんと複雑なものであるうか。

六年三組 中野 さゆり

あと教週間で小学校を卒業します。六年間かよつた三小。いろいろなことがありました。けんかもしました。そうじをさぼつて、ばつをうけたこともありました。修学旅行で、旅館でまくらを投げあつ



新しい通学路は

白山を切り崩して新しく造成される土地は
三小校地より一メートル程度低くなるそうです。

たり、おそろしい話をしたりしてふざけたことや、秋の遠足で普賢の項上に登りおえたときのあのうれしさなど、今でもはっきりおぼえています。楽しかったこと、おもしろかったことなど、いろんな思い出があるこの三小を卒業するのは、さびしいような気がします。毎年卒業式に泣く人がいるというのを聞いたとき、わたしには、その気持ち

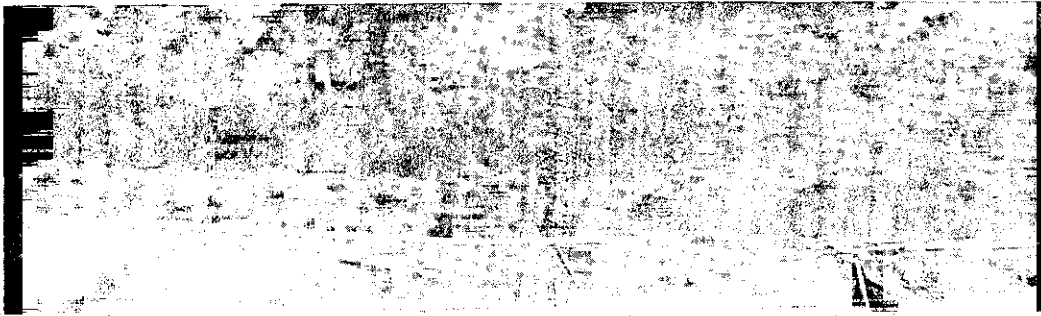
が理解できませんでした。でもいまならわかるような気もします。卒業式などはむだなことだと思っていた時期もありました。でも、お世話になった先生がたに感謝し、中学校へ入学する一つのきざりになっていくんだと思います。少し名残りおしいけど、小学校を卒業し中学校へ進むことになりました。だが、中学校とはどんな所だろうか、少し不

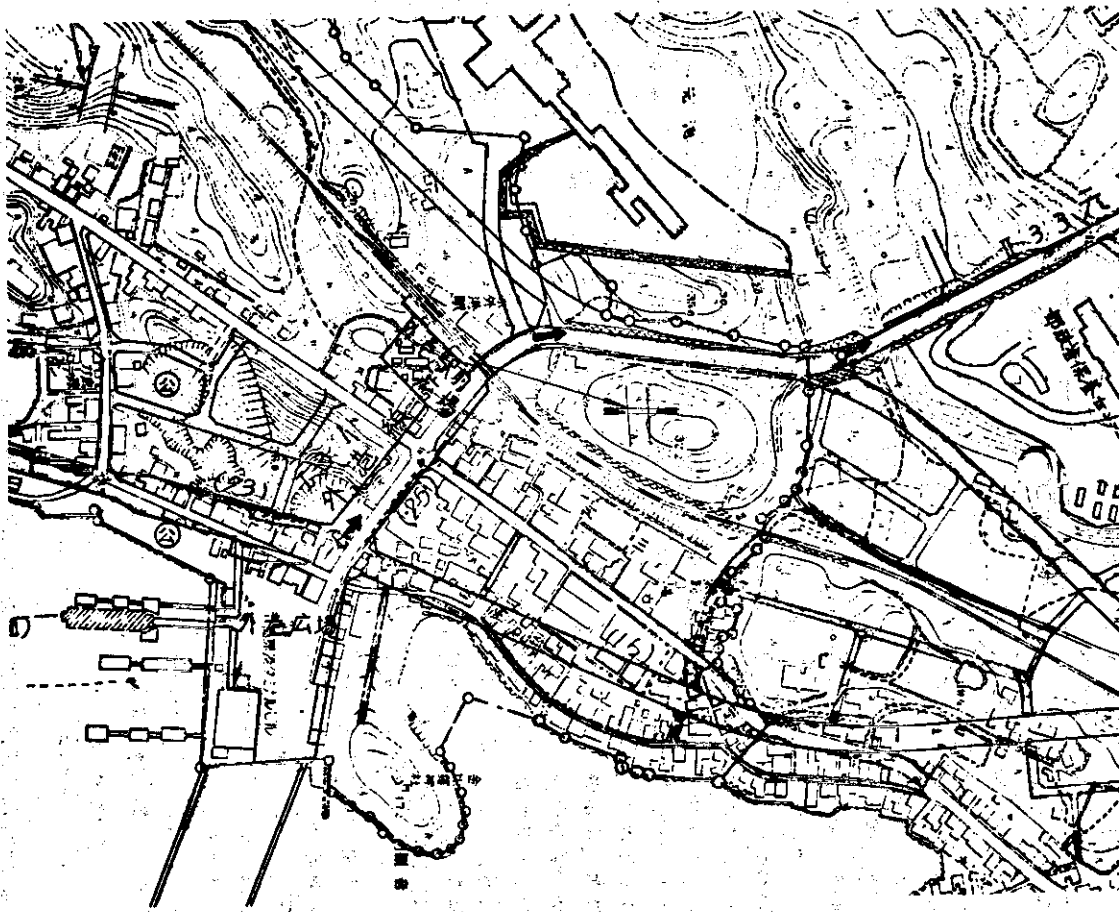
安です。ちがった学校の人もいっしょになります。家がつつたため、転校していった人とも会えるでしょう。中学校でもいろいろなことがあるでしょう。小学校の方がよかったです。卒業まで卒業までの残り少ない一日をみんな楽しく過ごしたいと思います。

都市計画事業による
白山切り崩し



新住宅地造成予定地





教育改革と

P T A

育友会長 山本篤五郎

今年度、一九七一一七二年は、恐らく、将来において、歴史上の大きな転換の年として、長く記憶に残ることと思えます。

国際的には、中国の国連加入と米中接近、アメリカの経済危機、英国のEC加盟・など、近年、いや、現代における特筆すべき大事件ばかりだと思えます。

わが国においても、アメリカの経済危機のおおりに受けて、いわゆる「ドルショック」の深刻な不景気は、これまでの高度成長経済に大きな方向転換を与えました。

また長い間の占領から沖繩がやっと返還されようとし、これでほんとうに「戦後」が終ることになりました。

このような歴史的な大転換に呼応するかのように、教育の分野においても、これまた「歴史的」といえる大きな変革が起きようとしています。

「わが国における今後の学

校教育のあり方について」文部大臣の諮問に答えて中央教育審議会が、昭和四十二年から四十年の長い日時と労力をかけて検討し、まとめた答申が、昨年六月に行われ、今後の学校教育はこれに基いて大きく改革されることになりました。これは、明治の学制施行や第二次大戦後の教育改革と並んで「第三の改革」と云われるほど、広範で根本的なものです。

この答申に対しては、その中間報告の時から、各方面、各立場からの多くの意見が出され、活潑に議論が斗わされて、大きく国民の関心を呼んで来しました。

私たちの島原市でも、市連合PTAほかの主催で昨年十月、郷土出身の教育評論家、伊藤昇先生の「七〇年代の教育」についての講演会で、この答申についてもお話があり、また、十一月、県教組主催の教研集会においても、この答申の批判を中心とする研修が行われました。

云うまでもなく、教育は私たちが未来に対して大きな責任を負う事業です。

そして、私たちは、身近か

な現在の子どもたちの教育をよくしていくとともに、未来の子どもたちのためにも、よりよき教育が行われるようにたえず改革への努力も行わねばならないと思います。

そこで、この答申に対して、より一そうの関心を持って、学習し理解を深め、またいろんな意見や批判にも十分耳を傾けて、自分の眼でたしかめた上で、積極的に意見を出して、教育のよりよき改革へ参加すべきではないかと思えます。

私たちのPTAは、そのための学習の場であり、また、お互いの学習や意見を身論として形成し、まとめあげて実現する活動の母体となるものだと思います。

大きな歴史の転換点に立って未来に責任を負う教育のよりよき改革のために、PTAの使命も重大であると私は考えております。



読書感想文から

ああむじょう

一年四くみ

にしかわみわ

わたしは、「ああむじょう」を見て、「ああむじょう」ってどんないみかなあと、おもいました。おかあさんにきくと「ほんをよむと、だんだんわかってくるよ。」といわれましました。わたしは、よみはじめたらかわいそうになって

だんだんよんでいきました。わたしは、ジャンパーブルジャンというおじさんが、とてもかわいそうでした。

このおじさんは、かわいい七人の子どものためにパン一きれをぬすんだために、十九年も、ろうに入られたのです。それも、じぶんのためではなく、子どものために、とおもうと、かわいそうで、かわいそうで、なみだがでました。

このほんをよんでわたしはどんなに人のためでも、どんなにほしくて、人のものをぬすんではいけないということがよくわかりました。でもわたしは、おじさんは、大すきです。ここ「いやさしい人

だからです。おじさんは、なんでもさいごまでするがんばりやだとおもいました。

おじさんにパン一きれをめぐんでやる人もなく、にわのすみねることもできないところは、かなしい気もちが、しました。

でもわたしは、一人だけすきな人がいました。それはミリエルしんぶという人です。

この人は、おじさんから、ぎんのさらとさじをぬすまれてあげました。」といったところですが、このしんぶさんは、おじさんよりもっとこのころのやさしい人かもしれません。

わたしは、このしんぶさんとはとてもだいすきです。それから一ばんきらいな人がいます。その人は、ジャーベルけいぶという人です。この人は、へびのような目で人を見るからです。わたしは、大すきらいです。このジャーベルけいぶ

は、おじさんをつかまえるしごとだから、しかたないとおもいました。だけどおじさんは、つかまえられることは、かんがえないでいっしょうけんめいりっぱなことをしていくところは、えらいとおもいました。

小公女

三年一組 本田恭子

わたしは、小公女を読んでセイラがかわいそうで、なみだを流してしまいました。そして、セイラがどんな時でもどんな人にも、公女さまの心をもちつづけたことに、強く心をうたれました。

お金もちの人の子どもは、とても大じにするミンチン先生から、セイラは、特べつなへやで、特べつに大事にされても、決していばったり、わがままをしたりしませんでした。それがころか、いつもみんなからのけものにされて一人ぼっちのアーメンガードにやさしくしたり、みんなから人間として考えられていない

女中のベッキーにも、お友達、なかくよみました。

また、四つのロッセイが、ラビニアから、いじめられていた時、自分より何年も年上のラビニアが、おどろいてもの言えないほどすごいけんまくで言い合いました。

私たちのクラスにも、弱いものいじめをする人はいるけれど、弱い人のみかたになつてくれる人は、あまりおりません。わたしは、セイラが正しいやさしい心をもっているだけでなく、弱い人の気持がよくわかり、ゆう気のある人だと思いました。

セイラが十一才のたんじょう日お祝の途中でセイラのおとうさんが、なくなられた知らせがくると、よくばりのミンチン先生は、たちまちセイラのふくやもちものを、とりあげて、とてもひどくこき使いました。

食べものもろくにあたえませんでした。わたしは、とても、はらがたちました。そしてそんなにされているセイラは、とてもつらかっただろうと思いました。今まで、みんなから大じにされ、かわいがられていたのに、一ぺんにみんなからあいてにされなくなったので、なれないつらい

ごといじょうに、かなしかつただろうと思いました。

三日もたべていないある日セイラは、四ペンスのぎんかをひろいました。始めから自分のものにしていないで、ペン屋さんから「そのくらいのお金はもらったときなさい。」といわれてはじめてペンをかいました。私はがまんづよい人だなあと思いました。そのうちそのかったパンは、六つのうち五つまで女の子きにあげ自分は、たった一つしかたべませんでした。

あとでセイラが、「公女さまの心でおれないような時もあった」と言いましたが、本当によくがまんできたなあと感心しました。

ながいあいだつらいことがあったけど、おとうさんの友だちに会えてしあわせになったとき、わたしは、本当によかったと思いました。

わたしも、セイラのようにどんな時にも、公女さまの心をもちつづけていきたいと思いました。



名犬

ラッシー



五年二組 大島理恵

この本を読んで、愛情というものが、どんなに深いものであるかを知りました。何百キロもある、遠い遠いところからジョー達をしたって、命がけで、もどってくるなんて感げきしました。よく、じょうだんに「そんなに言うことを聞かなければよそにくれてしまうぞ。」と父からいわれますが、もし、私がよそにもらわれたらラッシーのように「一人で、帰れぬかなあ。」と思うとともにとちゅうで、あきらめるので、はないかと思ったりします。本を読んでいくうちに、ラッシーがどうなるか心配でたまりませんでした。

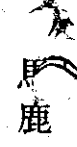
校門のところまでジョーに会ったね。」

たとき私は、ほっとしました。ジョーのおとうさん、おかあさん、ラッシーによってどんなに愛情が、大切であるかを教えられたことでしょう。

どんなにびんぼうしても、あんなにかわいがっていたものを、お金で売るなんて、私ははらをたてました。私も考えてみると、びんぼうな自分達といっしょに、くらすより、りっぱなこうしやくの家でくらすことが、ラッシーにとって幸せだと思って売ったかもしれません。

私のうちもお金持ちではありませんが、父から「言うことを聞かなければ、よそにくれてしまうぞ。」と言われると悲しくなります。

どんなお金持ちのうちよりも、びんぼうでもいいから、やはり、おとうさんやおかあさん達のところで、いっしょにくらせたら、それが一番幸せだと私は、思います。



鹿

今日は人の身 あすはわが身 特殊教育主任 藤原邦夫



世の中には利口者の多いように馬鹿者も多い。さて「馬鹿」とはなにか？ 辞書をめくると「おろかも」「あほう」「役にたたない」などと記してあります。私は、これ等の訳語と総合して「常識あるものが自分の智力・腕力・財力・地位などを悪用して非常識な行為をし人に平気で迷惑をかける者を馬鹿という」と意義づけました。

このように意義づけてみますと愛護学校には馬鹿はいないことがはっきりするでしょう。普通学級の子供達から「藤原学級の馬鹿」「馬鹿学級」などと侮られることがありますが、彼等にとって「馬鹿」という言葉は致命的な言葉に違いありません。くやし涙で訴えてきます。

訴えられる担任にとってもつらい悔言で胸の詰まる思いをこらえて、「人に馬鹿とい

う人は自分が馬鹿だということをおしえているのとおなじだから笑ってやりなさい。」と言いついておられますが中には納得出来ない子もあつてつらい場面をかもし出すことがあります。

昔は「勉強しないと落第しますよ」と親からおどされたものです。でもそのおどしは本人だけに限られ、他に迷惑をかけることはありませんでした。

でも「特殊学級に入れられますよ。」ということになりまして、特殊学級にはいって悪いことをする人・なまける

人達であるかのように誤解され、迷惑するのは特殊学級の子供達です。

何気なく言ったことが、とんだ罪をつくっていることを理解して載きたいものです。

さて、特殊学級の子供達を専門語でちえおくれとか精神薄弱児と呼んでおられますがこれ等の人たちは自分から好んで生れて来たのでもなく、お母さんも生もうと思つて生んだ訳ではありません。よかれ悪しかれこれはすべて神から授かった立派な神の子です。

昔から「ちえおくれ」の子は遺伝であり、家の恥としてその親も子も世の中の人たちから虐げられて来ています。

ところが最近の厚生省の発表によりますと、ちえおくれの出現率は二、〇七割つまり一〇〇名に二名の割で、本校一二〇〇名の児童からしますと、二四名程度の該当の児童がいる勘定になります。

そしてその原因別をみると一〇割が遺伝によるもので、他の大部分は妊娠中の諸病氣や障害とか、異常出産とか、生後の熱病、頭部損傷等によるものだとされております。

従つていつどここの家庭に出

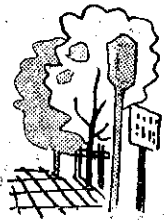
現するか全く予想つかない。つまり、きょう、あしたあなただの家にあなたの親戚に生まれるかもわかりません。今日はいわれるように予断を許さないものです。

一年をかえりみて

教養部長 古瀬 帝

昭和四十六年度も余日を残すのみとなりました。年度始めに、教養部担当をおおせつかり、果して責任を全うし得るかと案じておりましたが、会員の皆様の絶大なる御指導と御協力によりまして、何とか任期満了の様です。本当に御協力ありがとうございました。

法を選んでやり、無理な背のびした教育をなさらないよう出来るだけの措置を構じてやるのが真の親のつとめであり愛情ではないでしょうか。とにかく親の面子や虚栄から大事な子供さんの一生を誤らないよう、お互いに留意すべきでしょう。



現在、共稼ぎ時代と申しますか、多忙な折に、育友会の諸行事に参加する事は、本当に大変な事と思ひます。にもかかわらず、この一年間を通して、育友会の諸行事に本当に沢山参加して、先生方と共に、学校教育と家庭教育を結びつけ、子供の生活指導に、交通安全に、また自己の教養

の向上と会員相互の親睦を深める等、精一杯の御努力に深く感謝するものであります。この一年間子供達のすこやか成長を念じながら、よくがんばって頂いたと思います。その熱意の現れとして、子供達の生活指導面、交通安全面或は非行防止等、あらゆる面で効果を充分あげたものと思われます。

この一年間を顧りみて、唯一言、強いて申しますならばあらゆる育友会の行事に一人でも多く参加して頂きたいと云うことと、思ったことをありのままで結構ですから発言して頂き、或は「がんば」を利用して、どんなことでも、お気付きのことや、思ひつき考え等をより沢山発表して頂いて、会員のための育友会として、更に前進したいものです。

会が、名実共に発展するようお願いして止みません。会員の皆様、来年こそ張り切って頂き、自分達の育友会を思う存分に発展させて下さい。

編集後記



本年度の最終号をお届けします。各号に対して、原稿をお寄せくださった方々に心からお礼申し上げます。どうもありがとうございました。親しまれる「がんば」読まれる「がんば」に……と、係一同くふうと努力をしてきたつもりです。まだまだ不満の点や改善すべき点が残されているのですが、育友会は、ひとりひとりの手で育てていくのだという考えに對して、ささやかな力添えにでもなれたらと思っております。これからも、会員のみならず、読んでいただける「がんば」を目標に編集してみたいと考えております。ご意見、ご感想、文芸作品など広くご寄稿をお待ちします。